

# マツバラシ

*Psilotum nudum* (L.) Beauv.

## マツバラシ科

石川県カテゴリー

絶滅

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

### 選定理由

絶滅して既に50年近く経過、新産地の情報が無い。(現況:RE)

### 形態

植物体は樹枝状、茎は二又に分かれて分枝し、根は仮根のみで真根はない。

### 国内分布

本州、四国、九州。

### 県内分布

1950年代の初頭、外浦区の山伏山で発見された。1960年代の正宗巖敬が記述した文献には明記されており、また、当時確認した者もいるが、1970年代の文献にはすでに記述がなく、わが国における保護上重要な植物種の現状(1989)の都道府県別リストでは、石川県の記述にマツバラシの絶滅が明記されている。1970年代初頭までには絶滅したものと推定される。

### 生態など

常緑性の着生植物、または半地中植物で、無性芽と孢子で繁殖する。暖地では幹上に着生することが多く、分布限界付近では岩隙生となることが知られているが、山伏山のものは朽ちた倒木に生育していたという。

### 生育環境

樹上、岩上、岩隙、地上など。

### 危険要因

その他(樹木の枯損など。)

### 特記事項

参考文献は次の通り。

正宗巖敬. 1952. マツバラシの分布について. 植物研究雑誌27:52

正宗巖敬・里見信生. 1962. 能登半島の植物. 中部日本自然科学調査団報告. 第5報:1-3. 中部日本新聞社.

正宗巖敬. 1965. 能登半島の植物. 「能登半島学術調査書」(石川県), 95-202. 石川県, 金沢.



白井伸和・2002年8月13日・県外

分布図はありません。

県内の分布